



教育の振興

お 大 守 善 治

(83才)

現住所

秋田市

大守氏は、大正3年秋田県女子師範学校訓導に就任、以来今日までの60年間、一貫して教職に専念し、学校教育、社会教育の向上発展に大きく貢献した。この間昭和5年から同21年まで秋田県教育会の理事等をつとめ、県内教育団体の育成に尽力したほか、昭和23年からは、秋田県私学連合会の役職員を歴任し、私学振興に献身努力するかたわら、遺族会会長、社会福祉協議会理事等をもつとめ、社会福祉の向上にも力を尽くした。



民生の安定向上と社会 教育の推進

小 貫 ツ ギ

(77才)

現住所

秋田市

小貫氏は、昭和12年から17年間にわたって民生委員をつとめたほか、家事調停委員、保護司委員などを歴任し、戦前戦後を通じて本県における民生の安定向上に大きく寄与した。

また、昭和7年夫君とともに幼稚園を設立、その経営にあたり、昭和33年には園長となつて幼児教育の向上に尽力したほか、昭和26年からは秋田市婦人会長、秋田県地域婦人団体連絡協議会副会長として婦人活動の充実に努める一方、25年の長期間にわたつて秋田北高等学校同窓会長をつとめ、子女の育成指導に尽くすなど、社会教育の推進にも大きく貢献した。



漆器製造の研究と漆器 産業の振興

うえ さか ろく た ろろ
上 坂 六 太 郎

(73才)

現住所

雄勝郡稲川町

上坂氏は、昭和2年漆器製造研究のため、自ら先進地の福井県河和田に赴き、多年にわたり研さんを重ね、帰郷するや直ちに品質の改善、意匠の工夫等に献身努力すると共に販路の拡張にも努めた。

その後、推されて秋田県漆器工業協同組合理事長、日本漆器協会理事、日本漆器協同組合連合会理事等の重責を負い常に業界の育成強化に尽くし「川連漆器」の名声を高からしめ、本県における漆器産業の発展に大きく貢献した。



音楽教育の振興

佐藤長太郎

(66才)

現住所

大曲市

佐藤氏は、大正15年秋田県師範学校を卒業以来約40年間にわたって教職にあり、その間、小中学校長、高等学校教諭として学校運営に尽力するかたわら、特に音楽をとおしての情操教育に力を注ぎ、多数の音楽家を輩出すると共に県内における音楽指導者の養成に努めた。

また、日本作曲家連盟委員等をつとめ、県内110校に及ぶ校歌をはじめ、多数の市町村民歌や職場の歌を作曲し、社会教育面にも寄与するなど、本県の音楽教育の振興に大きく貢献した。



保健活動の推進

ふじ わら けい いち ろう
藤 原 慶 一 郎

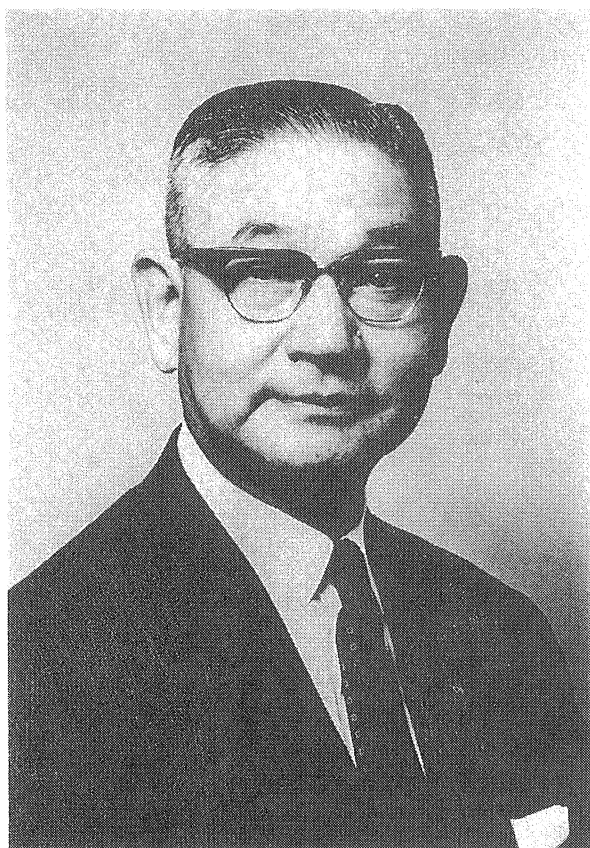
(64才)

現住所

南秋田郡天王町

藤原氏は、昭和23年医院を開業、以来地域医療の向上に努めると共に、秋田県医師会会長、秋田県学校保健会会長、秋田県成人病予防協会会長等、医療関係団体の要職を歴任し、これら団体の活動を通じて県民医療の発展に寄与した。

特に、はやくから地域保健活動の推進を提唱し、各保健所管内における地域保健協議会の設置運営を指導すると共に県民皆検診の促進、県民健康会議の設置、広域医療体制の整備に尽力するなど県民の健康管理体制の確立に大きく貢献した。



産 業 の 振 興

やま さき てい いら
山 崎 貞 一

(64才)

現住所

東京都

山崎氏は、昭和15年東京電気化学工業株式会社秋田地区平沢工場長として本県に赴任、戦後は同社社長、会長として製造工場の経営にあたり今日に至っているが、この間、秋田県経営者協会の役員としても活躍し、県内工業の発展と科学技術の向上に尽力した。

特に、従業員の地元雇用の拡大に努め、現在同社秋田地区工場において2,000人、県内の協力工場において6,000人を数えるに至り、出かせぎ者を吸収し、農工一体の実を挙げ、本県における産業の振興に大きく貢献した。



果樹農業の振興と農業 団体の育成

たなか しょういち
田 中 正 市

(61才)

現住所

平鹿郡平鹿町

田中氏は、昭和12年平鹿郡果実出荷組合連合会理事に就任、以来果樹農業に関する諸団体の要職にあつて、生産から流通まで一貫した共同体制の組織化に尽力し、果樹農業団体の育成強化に寄与した。

さらに、果樹農業協同組合の運営を通じてリンゴの品質改善と経営安定に努め、特に昭和40年には、我が国では技術的に困難とされていたゴールデンの無袋栽培技術を開発し、自ら栽培農家の指導にあたつて、品質の向上と生産の拡大を促進すると共に流通面の改善を図るなど、本県における果樹農業の振興に大きく貢献した。